

日本点字事情 かわら版

横浜市立盲学校

点字研究部

2002年2月27日発行 NO.39

文責 道村静江

「日本点字表記法2001年版」改訂内容解説2

3. 今まで「特別な用途に用いる付加記号」だったものの動向

(1) 小文字符 ⠠ * <表記法 第2章 第2節 6.【注意】P19 >

今までも付加記号としての同じ小文字符がありましたが、情報関係表記が多くなってきた時代に合わせて、正式の記号として登場しました。情報関係の解説書などのように、小文字の「あ、い、う、え、お、や、ゆ、よ」を書き表す必要があるときは、小文字符 ⠠ を前置します。

あ ⠠ い ⠠ う ⠠ え ⠠ お ⠠ や ⠠ ゆ ⠠ よ ⠠

ただし、小文字の「っ」は小文字符を前置すると、拗濁音の「 ⠠ (ぢゅ)」に誤読されるので、常に促音符で書き表します。

この小文字符の使い方は、墨字の小文字を明確にするときなどの場合にのみ使い、一般の点字表記で、拗音や特殊音などを表すために用いることは決してない。

(2) 畳語符 * ⠠ 削除

(濁点の付いた畳語符 * ⠠ 、半濁点の付いた畳語符 * ⠠ も同様の扱い)

今まで、各々 高々 方々 擬声語・擬態語などの繰り返し言葉の時に使われることもあったが、使用頻度も低く、外国語引用符の開き記号との区別が難しいので使わないことになった。

(3) 行末のつなぎ符 * ⠠

今までのように日本語文中では使わずに、数学記号の中で数式の継続を示す時にのみ使うようにした。

4. 今まで「必要に応じて用いる付加記号」だったものが 正式採用

(1) 伏せ字記号 <表記法 第4章 第4節 1.2. P68 ~ 69 >

⠠ (マルのマ) () のように覚えると便利かな?

⠠ (に見えるとがった ミ)

⠠ (に見える角張った ム)

× ⠠ (すべての代表 メ、そして数字の伏せ字にも使われる)

その他 ⠠ (マ行の残った文字 モ)

その使い方は、今までの使い方と同じです。大体が他の文字との組み合わせで書かれてあることが多いので、つなぎ符の使い方に気を付けましょう。また、墨字に 印や×印が書いてあるからといって形に対応させるのではなく、隠したことを表す伏せ字の意味で使うことに注意してください。

伏せ字の前後は分かち書きの規則に従う。ひと続きに書き表すべき1語中の一部に用いる場合には伏せ字の前後ろの文字との間に第1つなぎ符をはさんで続けて書き表す。伏せ字の後ろに助詞や助動詞がくる場合は一マスあけて書き表す。

